



【防災訓練を行いました。4～5頁】

目次

- 飯田下伊那診療情報  
連携システムについて … 2～3
- ネットワーク  
登録医は、あなたの身近な  
ホームドクターです！ … 4
- のむら内科医院 … 5
- 防災訓練を行いました … 4～5
- 検査の窓 … 6～7
- お知らせ … 8  
カプセル内視鏡を導入しました
- 職場紹介 … 8  
リハビリテーション科その⑥(臨床心理士)
- 新任医師の紹介 … 8

**飯田市立病院 基本理念**

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

**飯田市立病院 基本方針**

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、地域の皆さんに開かれた病院づくりを行います
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます

**飯田市立病院 理念行動指針**

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

# 時代に即した地域医療連携の形を考える

## — 飯田下伊那診療情報連携システム(ism-Link)の役割と普及 —

### ◆地域医療連携をさらに進めるために

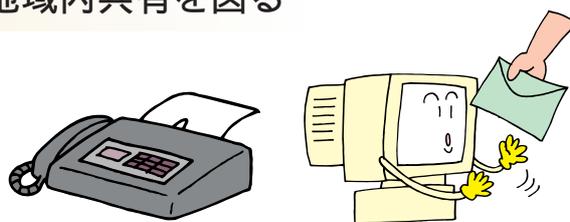
当地域でも、様々な形の医療連携が進んでいます。普段はご近所の診療所等で受診し、精密検査が必要な場合や、より専門的な治療が必要な場合に診療所等から当院の医師へ紹介状をいただき、患者さんの診療にあたっています。また、当院が保有するCT(コンピュータ断層撮影装置)やMRI(磁気共鳴画像撮影装置)を診療所等の先生から検査の依頼があり、当院で撮影を行った後、診療所等の先生が診断を行う場合(委託検査)も行っています。さらに、当院に入院して手術を行った場合でも、圏域内の病院に転院してリハビリを行い、自宅に帰る患者さんも多数いらっしゃいます。

最近では、「地域連携パス」として、当院で手術を行った患者さんが、普段は定期的にご近所の診療所で検査を行い、異常があった場合は当院で診察するなど、複数の病院や診療所が連携してひとりの患者さんの治療にあたるケースが増えてきました。

これらの医療連携を進め、患者さんが安心して受診できるように患者さんの情報を施設間で共有することが必要となってきました。

### ◆ICT(情報通信技術)利活用で医療情報の地域内共有を図る

これまで、カルテ(診療録)は紙媒体で作成管理されてきましたが、ここ数年は電子化により、コンピューター上で入力・保存/管理・活用する電子カルテに様変わりをはじめています。こうした電子化により、データの二次利用も積極的に行われるようになってきました。医療連携の分野においては、インターネット等の通信技術を応用した新たなネットワークシステムの開発・運用が始まっています。従来の紙媒体による郵送、FAX、患者さんが直接運ぶ方式から、ICT利活用による双方向型の情報共有システムへの転換により、いつでも瞬時に情報閲覧ができるようになりました。こうした医療情勢の変化は、今後一層加速していくものと考えます。



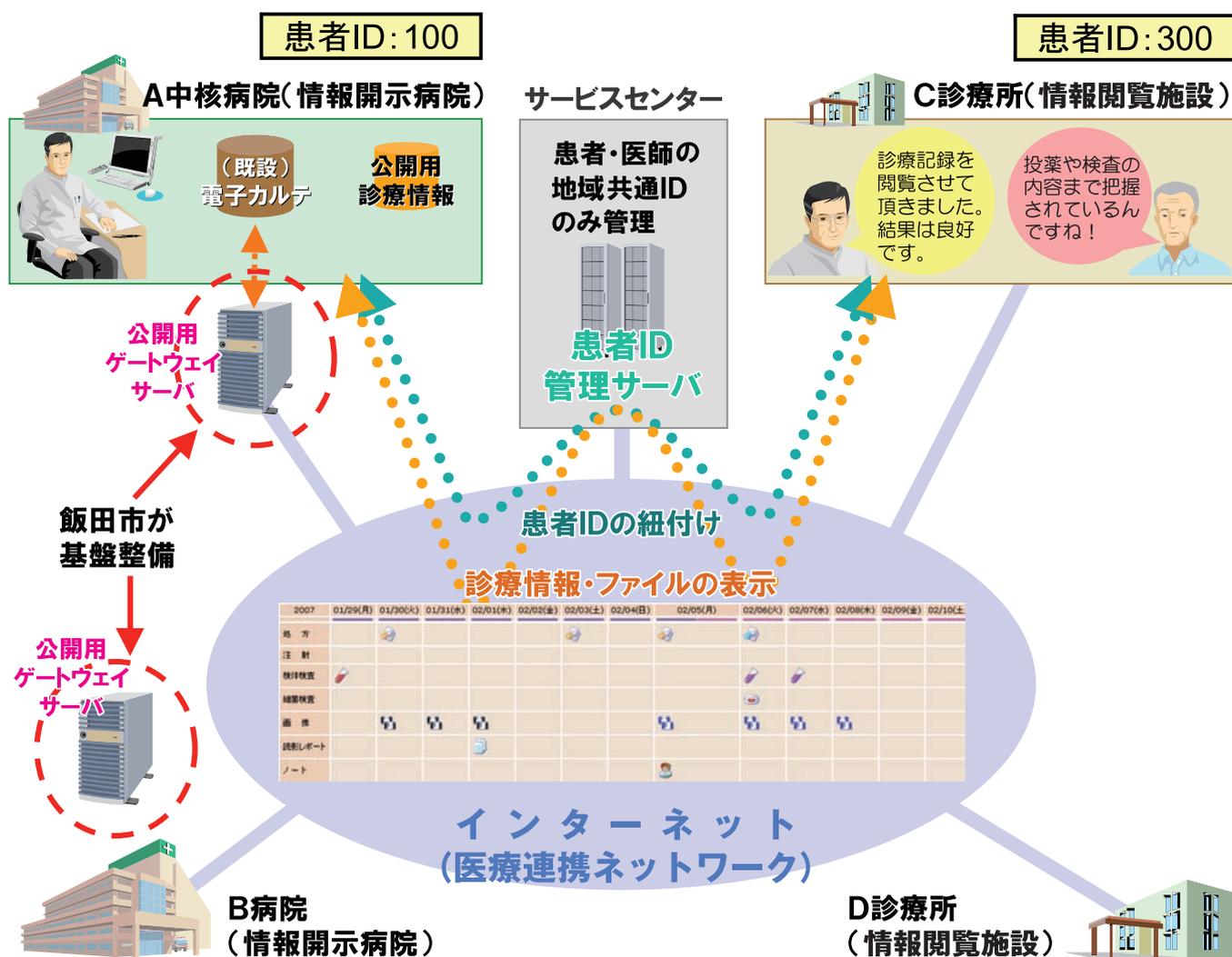
## ◆「飯田下伊那診療情報連携システム (ism-Link)」で時代に即した安全且つ効率的な医療連携を

飯田医師会管内には飯田市立病院を含め122の保険医療機関がありますが、地域内の医療機関が、患者さんの診療情報を一定のルールに基づいて共有できるネットワークを整備することが出来れば、患者さんは地域内で複数の医療機関にかかっている場合でも、その各医療機関での治療経過や投薬・検査情報などを医師に確認してもらいながら、安心・安全な医療を受けられるようになります。

そこで、地域内の医療機関のご理解とご協力により、飯田市が平成22年度に導入したのが、飯田下伊那診療情報連携システム (ism-Link) です。現在、本格的な導入を目指し、試験的運用を積み重ねています。

この診療情報連携システムは、地域内の複数病院にかかっている一人の患者さんに対して、診療情報を患者さんの同意を得たうえで、インターネットを通じて、患者さんが閲覧を許可した病院や診療所のパソコンで閲覧することにより、診療に役立てるといったものです。

セキュリティ(個人情報の保護)については、インターネットを経由する際に、暗号化して通信する方式を採用するなど、複数の安全対策を行っており、高い信頼と安全性を確保しています。



このシステムに参加し、患者さんの同意を得て診療情報を他の医療機関に開示している病院は、飯田市立病院、飯田病院、健和会病院、輝山会記念病院、瀬口脳神経外科病院の5病院です。今後、参加を検討している病院もあり、通信技術の進歩により、診療所の情報も開示することもできるようになってきました。

また、当院は信州大学附属病院や県立こども病院との連携を進めており、長野県全体でも診療情報の共有が進んでおります。

このシステムへの登録方法など詳細については、それぞれの病院の地域医療総合連携室にお問合せください。



## 登録医は、あなたの 身近なホームドクター です！



飯田市立病院は、  
地域住民一人ひとりが「かかりつけ医」を持つことを推進しています。

地域の皆さん。「かかりつけ医」をお持ちですか。「かかりつけ医」は、あなたの身近なホームドクターのことです。身体の不調など、ちょっと気になる症状があるときには、いつでも気軽にかかることができます。また、「かかりつけ医」の先生は、親切丁寧に患者さんの相談にのってくれるのが大きな強みです。診察の結果、さらに詳しい検査や治療が必要となれば、紹介状により、スムーズに次の段階の医療機関へと診療の引き継ぎをしてくれます。そんな、心強い身近な先生との信頼関係をしっかりと築くことが、私たちにとって、より良い医療を受けていくための一番の近道なのです。



**「私の家では、何かあればいつも近所の〇〇先生のところへ行くんですよ」**

そんな声がよく聞こえる地域でありたいものです。

地域医療支援病院の指定を受けている飯田市立病院は、地域の中核病院として、こうした「かかりつけ医」となる飯田下伊那地域の医療機関の先生方に「登録医」として加盟いただき、よりスムーズな医療連携の実現に向けて、日々協力体制の強化に努めて参ります。

### よくいただくご質問

#### Q. 大きな病院へ直接かかりたいのですが

A. 大型の病院というのは、現在その大多数が、より専門領域の診療を提供するために、診療科目の細分化と専門医の配置に力を注いでいます。そうした状況の中、患者さんの自己判断でこうした大型の病院へ直接受診をされると、必ずしもスムーズに該当診療科への受診が実現しないこともあるのです。結果として、複数の診療科を受診せざるを得ない状況となり、医療費の負担増や時間的なロスといったことに繋がっていきます。「かかりつけ医」の先生とよく相談のうえ、症状を見極めてもらい、該当診療科を有する次の段階の医療機関へ「診療情報提供書」により紹介してもらうことが大切なのです。

また、病院勤務医の負担の増大という問題もあるのです。大きな病院への直接の受診は、急性期医療等を担う専門医の業務の負担増となり、手術や高度な管理が必要とされる入院患者さんや、救急搬送された患者さんへの適切な対応が遅れてしまうなどの問題も懸念されます。



## 地震防災訓練



### より現実的に新たな体制で

市立病院では9月2日、飯田市地震防災訓練と連携し、初期対応と災害救急医療を組み合わせた総合訓練を実施しました。

今回は、より現実的で円滑な対応が図れるように、職員は地震発生を確認した後に自宅から病院へ駆けつけることとし、発災初期の職員が手薄な状況でも被害状況の把握や必要な指示伝達ができるよう訓練を行いました。また、登院した職員は、あ

## 登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

当医院は、上郷飯沼の国道より少し旧飯田市街の方に入ったところ、イオン飯田店とヤマダ電機の間にあります。開業した当初は、両店はなく、田んぼの蛙の賑やかな所でした。平成7年4月開院し、17年となります。

私は、昭和55年大阪医科大学を卒業し、同大学第2内科（消化器内科）を経て、当時の町立高松病院勤務、市立高松分院退職し、開業しました。内科・消化器内科・小児科を標榜しております。開院当初から、在宅往診・在宅看護を行い、平成11年には法人化と同時に、「訪問看護ステーション」を併設しました。

## のむら内科医院

(飯田市上郷飯沼)



### 地域の皆さんの健康を担って

のむら内科医院院長 野邑敏夫

その後在宅支援診療所、本年からは他の5医療機関と連携し、強化型在宅支援診療所として、訪問往診も行っております。ただ、介護保険制度開始後は、患者の施設入所が増加、在宅患者減少のため、平成22年には「訪問看護ステーション」を閉所しました。しかし、現在もみなし訪問看護所として、引き続き訪問看護も行っております。

また、胃・十二指腸内視鏡、腹部エコー、肺機能、眼底、骨等の検査も行い、痛み軽減のための物療機器も用意しています。予防注射、特定検診、健康診断、人間ドックも行っ

ておりますので気軽に申し込み下さい。

患者さんが人生を十分納得され、自宅で家族に看取られて、あの世に旅立つお手伝いを今後もしていきたいと思っております。



野邑先生(前列中央)とスタッフの皆様

所在地	〒395-0002 飯田市上郷飯沼1808-1 ☎0265-23-7000
診療科目	内科・消化器内科・小児科
診療(受付)時間	月・火・木・金8:30-12:00/15:30-18:30 水・土8:30-12:00
休診日	水・土曜日の午後/日曜日・祝日
往診	可
駐車場	あり



らかじめ担当する場所へ行き、順次訓練に参加する方法で行いました。

職員が参集してからは本部を講義室に開設し、指揮系統の訓練のほか、診療隊による被災患者を想定したトリアージと処置訓練を行いました。診療隊には今回から新たに災害臨時病棟班を編成し、緊急入院や域外搬送体制の充実を図りました。

今後は、訓練の反省事項を基にマニュアルなどの見直しを行い、いざという時の備えをさらに整えていきます。



## 採血後の血液の行方は・・・

採血室には1日300名を超える患者さんが訪れます。私たち臨床検査科は少しでも待ち時間を減らすよう心がけ、また迅速かつ正確な検査に努めています。今回は、採血室で受付をしてから、結果が報告されるまでの流れと、なぜ何本も採血が必要なのか、どんな機械で測定されているか等を紹介します。

### 1 採血受付



患者さんが提出した基本票をバーコードリーダーで読み込み、医師からの採血オーダーが受付されます。バーコードによる管理は人為的ミスを防ぎます。

### 2 採血管準備



読み込まれた採血オーダーに従って、名前が入ったラベルが採血管に貼付され、トレイに入ります。採血量は再検を含めた必要最小限の採血管が準備されます。

採血管は用途に応じて、蓋の色等で区別され、それぞれに違う薬品が入っています。



患者さん個別に必要な採血管が発行されます。

### 3 採血



採血時は患者さん本人であることを確認するため、ご自身にお名前を名乗っていただいています。

また、アルコール消毒でかぶれる方、その他の注意事項等を事前登録し、確認後採血します。

### 4 血液の行方は・・・

採血された血液は、そのまま測定されるものと、\*上清じょうせいを使用するものとに分けられます。

#### 採血後の血液



\*上清



そのままの血液をA,Bの機器で測定します。



血液を高速遠心し、上清をC~Fの機器で測定します。



次のページの各測定機器へ

## A 血糖、HbA1c測定

糖とヘモグロビンA1cを測定します。糖尿病の検査測定機です。



所要時間：10分

# 中央検査室

採血室

## D 血液凝固測定

血液の固まる機能を調べます。血液の流れを良くする薬（ワーファリン等）の効果測定にも使用します。



所要時間：20分

## B 血球分析装置

白血球、赤血球、血小板の数や異常細胞を見つけます。貧血、炎症、白血病などで検査します。



所要時間：10分

## E 血液型、輸血検査

大量出血や貧血で輸血する時に必要な検査で、“安全な輸血”には欠かせない検査です。



所要時間：45分

## C 腫瘍マーカー測定

悪性腫瘍などで上昇する項目を測定します。また治療効果を確認します。



所要時間：60分

## F 生化学検査測定

体内の臓器で作られる酵素やホルモンなど調べることで肝臓や腎臓、脂質代謝の状態を調べます。



所要時間：30分

血液検査は検査項目によって採血管や測定機器が違います。ここでは主な機器の紹介と、それに用いる血液の種類、測定時間を掲載しました。

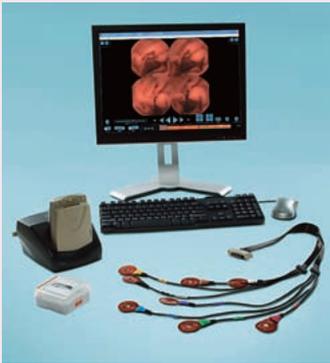
これらの機器は24時間体制で稼働させ緊急に対応しています。また、災害時の停電に備え自家発電で対応できるように整備されています。

今後も患者さんの診断・治療に役立つようスタッフ全員で正確で迅速な検査に取り組んで参ります。検査に関しご質問等がありましたら、お気軽に声をかけてください。



## お知らせ

# 小腸カプセル内視鏡システムを導入しました



当院では、2012年7月から小腸用カプセル内視鏡(ギブン・イメージング社製)による検査を開始しました。

これまでカプセル内視鏡による検査は、飯田下伊那においては導入されていなかったため、大学病院等へ紹介している状況でしたが、導入によって通常の上下部消化器内視鏡では到達が困難な小腸全域に対し、被検者の身体的負担が少ない医学的有用性の高い検査が可能となりました。

カプセル内視鏡は文字通り、カプセルの形をした内視鏡で、小腸疾患が疑われる場合の検査法として使われ、使用については医師の判断が必要となります。外径11ミリ、全長26ミリのカプセルの中に、超小型撮像カメラと無線送信技術が搭載されています。口からのみ込んだカプセル内視鏡は、消化管の運動によって移動しながら撮影した画像を体外に送信し画像診断を行います。そのため検査に伴う痛みはなく、且つ簡便な検査が可能となります。撮影に8時間程かかりますが、検査中でも日常生活に影響はなく、負担が軽減された医療の提供が可能となります。当院は第3次整備事業に着手し、より高度な医療の提供を目指していますが、内視鏡室も新しくなり、専用レントゲン透視室を設置して、検査・治療の効率化を図る計画です。今後とも常に安全で苦痛のない内視鏡検査を心掛け、高度な内視鏡技術を提供できるよう、努力してまいります。

※写真についてはメーカーから提供していただいた写真です。

## シリーズ ● 職場紹介 ● その34

## 【リハビリテーション科の紹介 その⑥(臨床心理士)】

臨床心理士は心理学の知識・技法を用いて人間の心にアプローチする職種です。当院では小児科に通院中の親子、がんなどの病気により心の辛さをお持ちの方を対象に業務に携わっています。小児科では心理検査の実施やカウンセリングを、緩和ケアではがんに伴う心の辛さを抱えた方への

カウンセリングを行っています。不安を一人で抱えていると気持ちが辛くなったり、子どもの場合は身体症状を訴えたりすることがありますが、その際カウンセリングは有効なアプローチです。心理士は医師の指示で心理的支援を行っていますので、病気による不安を聞いてもらいたい時やお子さんにつ

いて発達の、心理的な心配が  
おありでしたら、主治医にご  
相談ください。



## あ と が き

先日、宮城県の上三陸沿岸地域へ行く機会がありました。東日本大震災から1年半が過ぎましたが、巨大津波の爪痕はとても深く、本格的な復興はまだこれからという印象を受けました。多くの病院も甚大な被害を受けていました。地域には津波こそ来ませんが、巨大災害にも対応する体制を万全にしていく必要性を改めて実感させられました。 編集委員 田中悠貴

## 新任医師の紹介

平成24年7月～10月



### 病理診断科

尹 漢勝

(ゆん かんかつ)  
昭和50年3月卒業  
平成24年9月1日着任  
前勤務病院  
ニュージーランドotago大学



### 救急科

城下 聡子

(じょうした さとこ)  
平成18年3月卒業  
平成24年10月1日着任  
前勤務病院  
信州大学付属病院



### 形成外科

佐治 智子

(さじ ともこ)  
平成20年3月卒業  
平成24年10月1日着任  
前勤務病院  
松波総合病院